

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕（支配人）	・10月、11月に3連休があり、人の動きが良くなる観光シーズンと重なるためかなりな数字が期待できる。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・街の者、客の顔、言動に今までにない明るさが現れてきており、街の活性化につながる。
		百貨店（営業担当）	・業種別に見ると、やや良くなってきているものもあるという話も出始めたので、今後には少しはあるが期待が持てる。ただし雇用への不安感が払しょくできておらず、安心はできない。
		百貨店（販売促進担当）	・来客数、売上とも少しではあるが伸びてきている。テナントの売上状況は、まちまちであるが、買物に来ている客の様子等からも、景気が少し持ち直してきつつあることがうかがえる。
		コンビニ（エリア担当）	・年末に向けての商談の好調な様子などを見ても、また客の消費動向から見ても、年末に向けてこれ以上は悪くなることはない。
		家電量販店（店長）	・エコポイントの効果で、年末は売上が上がってくる。
		家電量販店（店長）	・10月は新基本ソフトウェアの発売があり、不調であったパソコンや周辺機器の販売が復調する。また、エコポイント効果で薄型テレビは引き続き好調を維持する。
		家電量販店（店員）	・2～3か月先には年末のセールになり、またエコポイントも継続中であるため、売上は伸びる。
		家電量販店（予算・企画担当）	・エコポイント制度が年度内で終了するため、ある種の駆け込み需要が見込まれる。ただし、需要の先食的な要素が大きいため、来年度以降は反動による売上減が懸念される。
		乗用車販売店（統括）	・減税と補助金効果が今年2月まで持続する。
		乗用車販売店（販売担当）	・新商品の投入が続くため、期待が持てる。
	乗用車販売店（営業担当）	・減税、補助金を実施されて3か月が経過して情報も行き渡り、購入を検討する客はまだ増加するため、売上は更に増加していく。ただし、来年実施される可能性がある暫定税率の廃止が気にかかる。	
	その他専門店〔海産物〕（支配人）	・年末に向かうと、かに等、歳暮の需要が出てくるので期待できる。	
	一般レストラン（店長）	・先月、今月とランチタイムを中心に来客数が増えてきており、このまま年末に向けて良くなっていく。	
	美容室（経営者）	・年末を控えてこれからも企画等を組んでいくので、これから3か月は良くなっていく。やや悪い流れのままではないよう努力している。	
	変わらない	商店街（代表者）	・補助金を活用した新規開店事業が、この度の政権交代にて一時ストップとなっており、今後の動向でどうなるか分からない。
商店街（代表者）		・新しい与党は張り切っており、その政策次第である。消費は心理的な要素が強く、その点では景気を刺激する。	
一般小売店〔酒店〕（経営者）		・地方の小さな町は景気や雇用が上向いてきた実感に乏しく、現状維持が精一杯の状況で、良くはならない。全般的に少子高齢化の状況が年々厳しくなっており、人口減が商売のやりにくさを加速させる。	
一般小売店〔紙類〕（経営者）		・8月以降、観光客はずっと増加傾向にあり、例年だと11月が最も観光客が多いので、この傾向が維持される。	
百貨店（営業担当）		・景気は徐々に上向いているように思える反面、ちょっとしたことでまた悪くなりそうだ。また、客は衣料品の買い控えに慣れてきている。	
百貨店（営業担当）		・客の購入傾向を見ているとまだまだシビアで、景気回復を感じるまでには至らない。	
百貨店（販売促進担当）		・自治体が、第2弾の20%お得な「プレミアム付き商品券」を12億円分を発行して、ほぼ完売した。今後の消費高揚のカンフル剤となる期待感がある反面、取引先は売上低迷のなか、生産する量、種類とも絞っており、地方店においては物の確保自体が厳しい状況になりつつある。	
百貨店（購買担当）		・ここ数か月、客は経済状況が上向きでないこと、また自身の経済状況が良く分っており、常に低価格なセール商品を店頭においておかないと来客数が確保できない。したがって、来客数が確保できても、客単価は下がる状況が続く。	

百貨店（売場担当）	・お歳暮ギフト需要は微減、クリスマスも単価ダウンや物離れに拍車が掛かり、厳しい商戦が予想される。気温も暖冬予想がされており、良くなる要素は何もない。
百貨店（販売担当）	・来客数は前年並みに戻りつつあるが、客単価は大幅に下がったままである。客の購買意欲は戻ってきていない。
スーパー（店長）	・冬のボーナスも夏同様前年をかなり下回りそうであり、また政治の先行きも不透明であることから、客は生活防衛の態度を変えずこのまま推移する。
コンビニ（エリア担当）	・客は100円おにぎりに慣れてしまうと、通常価格には手を出さなくなるため、コンビニの主力商品であるお弁当やおにぎりの低価格化が進み、客単価の低下傾向は継続する。
コンビニ（エリア担当）	・来客数は最近ずっと同じ前年比で推移しており、これからもこの動きで推移する。ただし客単価が下がっており、衝動買いを呼び込むような販売施策をこれから打っていく。
衣料品専門店（経営者）	・悪くなった状態に変化の兆しが全くない。
衣料品専門店（店長）	・良くなる要因が見つからない。客はポイント5倍、10倍という付加価値がある時にまとめて買う傾向が強まって、平日は来客数、客単価とも極端に減少しており、この傾向は変わらない。
乗用車販売店（サービス担当）	・補助金等の新車優遇処置等が終息しないと、中古車は良くならない。売れても、安い車ばかりである。
自動車備品販売店（経営者）	・現状では極端に悪くなるとは予測されず、かといって好調に反転するとも予測できず、一進一退の状況が続く。
その他専門店〔和菓子〕（営業担当）	・よくなる要素も、これ以上悪くなる要素も見当たらない。
その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	・しばらくは外食の手控え、節約の方向性は変わらない。
観光型ホテル（スタッフ）	・行楽シーズンが終わってからの予約状況を見ると、昨年よりも出だしが悪い。その反面、高速道路料金引下げのため人の動きは激しくなる。
観光型ホテル（経理総務担当）	・宿泊部門は堅調に推移しているが、宴会部門での法人利用は相変わらず低調のまま推移する。
都市型ホテル（スタッフ）	・忘年会の問い合わせも少なく、予約状況が悪い。
都市型ホテル（総務担当）	・新型インフルエンザはいつ当地でも流行するか分からず、また風評被害が起こりやすい。さらに、新政権になってからのこれからの政治動向はまだ読めず、円高が進行すれば訪日旅行者に影響が現れ、燃料費が高騰すれば交通もにぶり、先行きはより不透明になっている。
タクシー運転手	・これからのイベントなどはあるが、全体の需要を底上げするまでには至らない。
タクシー運転手	・最近ずっと売上が前年比マイナス10%の状態が続いていること、客の政治についての不満の声を聞くことが多いことから、このままの状況が続く。
タクシー運転手	・取り巻いている環境についてはやや良くなるか、変わらない。企業の費用削減志向は相変わらず厳しく、昼も夜も厳しいと思われるが、ただし農繁期が終わるため、郡部から町に出る動きが出て、少しは回復する。
通信会社（営業担当）	・ケーブルテレビ既契約のデジタル化への移行ニーズは強くなってきているが、新規契約に対する引き合いは相変わらず弱い。
テーマパーク（業務担当）	・次回実施する利用促進イベントの周知を効果的に行うことで、現状を維持する。ただし新型インフルエンザの流行拡大がマイナス要因となることも懸念される。
テーマパーク（管理担当）	・政治の動向もあり、客は全体的に様子見の状態である。
ゴルフ場（営業担当）	・ゴルフ場はこれからがシーズンなので、例年これから3か月は他の月と比べて良い。ただし、年々プレー単価や料理単価が落ちているので多くは期待できない。
競艇場（職員）	・入場者がこれからも横ばいの状況が続く。
設計事務所（経営者）	・政権交代で補助金まで見直しがあり、箱物の仕事は増えない。
設計事務所（経営者）	・政権が変わったものの、住宅や建築に関わる政策が変わらなければ、建築関連の景気が上向かない。
住宅販売会社（従業員）	・客、業者ともにしのぎを削るような状況での商談は時間がかかり、受注増という方向性に結び付くにも、更に時間がかかる。

	住宅販売会社（販売担当）	・展示場、イベント、売り出しへの来場者が相変わらず少なく、今後も販売量が増えない。
	住宅販売会社（経理担当）	・住宅に対して、環境問題への関心から太陽光発電や自然冷媒ヒートポンプ給湯機などの採用が増える可能性はあるが、そのような設備は予算が割増しになるため、結果的に客の住宅への購入意欲が低下する。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・ゴルフは連休があったため今月は大変悪く、10月は通常なら良い月なのだが、今年はこの流れで悪くなりそうだ。
	一般小売店〔印章〕（営業担当）	・これから駅周辺の商業施設で撤退するものがあり、地域として印象がより悪化する。
	百貨店（売場担当）	・長期の売上不振から、テナントの撤退や販売員の上げが常に待ちかまえている状況となる。
	スーパー（店長）	・収入が減少しているなか、客の購買意欲は向上せず、競合店との価格競争が厳しさを増すため、客単価、1品単価の減少はまだ続き、利益の確保が困難になる。
	スーパー（総務担当）	・この冬暖冬になるという予報も出ており、鍋材料の動きが悪くなる。また、「行ったらついつい買ってしまわないようにしている」という客が多く、そういう人がこれから増える。
	スーパー（経営企画）	・商品の量目の小分けや少量化と、一層の低価格化の動きがこれからも続く。
	コンビニ（エリア担当）	・このデフレの傾向はまだ続き、景気の回復は望めない。
	衣料品専門店（地域ブロック長）	・雇用情勢はまだ悪く、消費者の購買意欲は上がってこない。
	衣料品専門店（販売促進担当）	・トップスとボトムのトータルで1万円以内の購買が目立っているため、2万以上の高額商品が苦戦する。今後、いかにアウトターが動くかが厳しい。
	衣料品専門店（地域ブロック長）	・客の話では企業業績など厳しい状態が続くそうで、客単価、来客数等についても更に厳しさを増していく。
	家電量販店（店長）	・客の心理に不況感が強く刻まれており、これから苦戦する。このままでは死活問題となり、真のサバイバル時代が到来しそうだ。
	自動車備品販売店（店長）	・高速道路料金引下げの効果により車のメンテナンス、ETCの購入で一時景気が良かったが、高速道路料金の無料化が打ち出されているためETCの買い控えが起こる。
	通信会社（企画担当）	・客と話をしていると「政権交代の影響で、これから四半期程度は景気は悪くなる」との意見が多い。
	通信会社（通信事業担当）	・すべてにおいて様子見の雰囲気があり、新規加入の動きは、全くといっていいほどない。
テーマパーク（広報担当）	・インフルエンザ感染の拡大を懸念している。	
美容室（経営者）	・もう1～2年、この悪い状況が続くのではないかと同業者と話をしており、良くなるような状況が見えない。	
悪くなる	商店街（代表者）	・客は将来の不安、不透明感にあえいでおり、このため我々もまた少子化、オーバーストア、デフレの三重苦にあえいでおり、経済・政治状況等、どこを取って見ても、将来にどんな明るさも見出せない。
	商店街（代表者）	・高速道路料金引下げのために、冬物ファッションも大都会で買われてしまう。
	スーパー（店長）	・付近で閉店、退店が相次いでおり、地域としての魅力がどんどんと落ちている状況から見て良くならない。
	スーパー（店長）	・地方都市では家計収入の減少は更に進み 年末にかけて更に不況感は強くなる。
	スーパー（財務担当）	・個人消費の急速な回復は望めないため、ますます低価格志向は強まる。
	住関連専門店（広告企画担当）	・1品単価が下がるのと、数量が伸びないと、両方から悪くなる。
	一般レストラン（店長）	・連休が多く、その前後の来客数の落ち込みが大きくなり、客単価も低くなる。
	都市型ホテル（経営者）	・新型インフルエンザの流行が加速し、旅行や出張の手控が一層進む。
	美容室（経営者）	・消費を抑えて耐え忍んでいるといった客が多く、仕事がこれから回ってくるといったような話は聞かれない。
	設計事務所（経営者）	・景気回復の材料が乏しいため、消費の回復が見込めず、受注減がしばらく続く。
企業動向関連	良くなる	-
	やや良くなる	食料品製造業（総務担当）

	食料品製造業（業務担当）	・消費を我慢していた消費者は、日常の節約は継続するものの、大型連休や年末年始などの特別な時には商品を購入する動きが出てきた。当社の製品はサービスエリアにおける販売量が多いため、高速を利用して人が動けば、売上アップにつながる。
	鉄鋼業（総務担当）	・円高の進行やエレクトロニクス関係の底割れが懸念されるが、中国・東南アジア地域の経済成長に期待できる。
	電気機械器具製造業（広報担当）	・受注増がある程度見込める。
	電気機械器具製造業（総務担当）	・家電関連には秋・年末商戦に向けて、この夏のエコポイント商戦が好調なことから、高止まりの受注計画が入ってくる。人員移動によりラインの対応をしているが人員不足となっており、1年振りの中途採用を検討している。
	通信業（部門長）	・政権交代により政策見直しが活性化してきており、雇用、福祉、子育てなど身の回りの取り巻く環境などに変化が現れ、個人消費が拡大し、結果的に製造、生産も伸びてくれれば売上も伸びる。
変わらない	農林水産業（従業者）	・イカ釣り漁に期待が持てるようになってきた。京都や長崎、北海道から浜田沖に漁にきており、このまま好調を維持する。7月からのエチゼンクラゲの発生は、沖合い底引き網、大中型巻き網船には痛手となっているが、これからも増加傾向にある。
	木材木製品製造業（経理担当）	・実感するほどの受注の増加がない状況が続く。
	化学工業（総務担当）	・これからも現状を維持する。
	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・鉄鋼業向け生産は現在の状態が続く見込みだが、焼却炉向けの引合がなく生産量も現行水準程度である。10月納期で付加作業の多い製品の受注があるためやや多忙感があるが、この分野の11月以降の受注は低調である。
	非鉄金属製造業（経理担当）	・在庫削減の反動としての需要急伸も落ち着き、横ばいの状況が続く。
	金属製品製造業（総務担当）	・得意先の受注量が少ないため、当社への受注も必然的に低くなり、昨年比50%にとどまっている。今年の年末からよくなるのではとの想定であったが、そのような兆しはいまだ見られず、現在の非常に厳しい状況が続く。
	一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きに変化はない。
	一般機械器具製造業（経営企画担当）	・国内、海外共に市場の冷え込みは長期化しており、今後も売上不振の厳しい状況が続く。
	輸送用機械器具製造業（経営者）	・ひと頃比べられるほどは良くなってはいないが、まだまだこのままの状態は持続する。ただし自動車については11月ごろから、多少落ちるかもしれないという情報が入っている。
	輸送用機械器具製造業（経理担当）	・3か月前に比べると受注量も安定してきたが、長期の内示を見るとまだ回復傾向とはいえない
	建設業（経営者）	・来年度になって、景気回復が見極められなければ民間設備の増加に期待がもてない。
	輸送業（統括）	・固定費を増やさなければ増収が望めなくなっているにもかかわらず、景気の影響で自社の費用を圧縮したため、現状以上の多くの収入を確保しにくい状況にある。
	金融業（業界情報担当）	・依然として前年比7～8割程度の稼働率ではあるが、回復基調を継続する。
	金融業（営業担当）	・取引先の経営者と話す機会が多くあるが、先行きの不透明感を嘆く声をよく耳にする。この状況は、ここ数年続いており、当面は現在の景気とおおむね変化なく推移する。
会計事務所（職員）	・大企業は自分達の業績確保のため、下請に対する締め付けをますます強めてきている。現在の状態では、先行きに自信が持てないと考えている事業主も少なくない。	
コピーサービス業（管理担当）	・景気回復の兆しはなく、取引先は慎重で外部への資金流出を抑える傾向は強いいため、我々のような外部業者に仕事は回ってくる見込みがない。	
やや悪くなる	建設業（経営者）	・国直轄の公共工事の見直しなど、建設業にとってはマイナス要因ばかりでまだまだ下がりそうであり、ムードは本当に良くない。
	建設業（総務担当）	・新政権の公共投資に関する姿勢から見て、建設業には厳しい状況が続く。
悪くなる	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・デパートや百貨店の売上減少に歯止めが掛からず、受注も減少する。
雇用	良くなる	-

関連	やや良くなる	求人情報誌製作会社（支店長）	・中途採用の動き、新卒採用企業数の動きが出ており、底は脱した感がある。
		職業安定所（職員）	・欠員補充を含め新たに採用する環境にないとする声がある中、製造業では在庫調整が一段落し、新たな生産に伴い、徐々にだが求人意欲の高まりがある。
		職業安定所（職員）	・企業の求人募集に対する意欲は、少しずつ増加しつつある。
		民間職業紹介機関（職員）	・時期は定かではないが人を増やす計画があるなど、企業の潜在的な求人ニーズは増えているが、求人活動にまで現れていない。
変わらない		人材派遣会社（担当者）	・わずかながら企業求人等が増えつつあり、以前よりは良くなっていくが、まだ景気が良くなるといえるほどではない。
		人材派遣会社（営業担当）	・技能職に関しては、自動車関連での求人が回復してくるのが年明けを予想しており、第3四半期での大幅な景気回復は見込めない。ただ、その他業種では、年末需要等が例年であれば2～3か月後あたりに発生する。
		求人情報誌製作会社（支社長）	・これからも求人数に大きな変化はない。
		職業安定所（職員）	・雇用調整助成金等を申請している事業所から、9月、10月以降の受注見通しが全く立たないという話を聞く。また、今後の受注の見通しが立たなくなったことから、新規学卒求人を取り消す事業所も出た。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・昨年に比べ、求人件数が少ない。
やや悪くなる		求人情報誌製作会社（担当者）	・好転する様子が見受けられない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・9月の好業績も一過性のものと受け止める人が多く、これから年末に向けては厳しい見方の業界が多く、雇用も改善しない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・政権交代後、官公庁、各種団体、企業等様子見のようで、積極的な動きがない。
		職業安定所（雇用開発担当）	・建設業者の中には仕事が全くなく、従業員を全員休業させる業者も少なからずある。また、自動車部品関連業者では10月以降の休業・教育訓練を上積み計画しているとの話がある。
悪くなる		-	-